

ハンセン病療養所での勤務について

国立療養所多磨全生園 内科非常勤医師
大滝純司

ハンセン病の専門家ではありません

- 今回は専門家ではない立場から
- 個々の患者の情報は伏せて



多磨全生園HPより引用(一部改変)

ハンセン病について

1) 菌と感染力

抗酸菌の一種である癩（らい）菌による感染症

→皮膚のマクロファージ内寄生

+末梢神経細胞内寄生

→感染力は非常に低い

感染時期は小児が多く大人への感染及び発病は極めて稀

潜伏期間は3～5年



有効なワクチンの開発→予防は困難

2) 症状

3) 日本における歴史

4) 世界の状況

ウィキペディアより引用(一部改変)

ハンセン病について

1) 菌と感染力

2) 症状

一次症状：主に末梢神経障害と皮膚症状

二次症状

眼症状：顔面神経麻痺→兔眼

三叉神経麻痺→角膜の知覚障害→角膜炎→失明

鼻粘膜障害→涙管閉塞→頑固な結膜炎

神経因性疼痛：神経痛や知覚過敏

脱毛, 変形(病変+外傷), 皮膚疾患, 筋萎縮・運動障害

3) 日本における歴史

4) 世界の状況

ウィキペディアより引用(一部改変)

ハンセン病について

- 1) 菌と感染力
- 2) 症状

厚労省「ハンセン病の向こう側」
より引用(一部改変)

- 3) 日本における歴史
- 4) 世界の状況



ハンセン病について

- 1) 菌と感染力
- 2) 症状

- 3) 日本における歴史

中世：発症者は非人 江戸期には霊場巡礼→物乞

明治：1907年 癩予防法制定→癩療養所設置

昭和：偏見はエスカレート

無癩県運動→多数の事件 患者懲戒検束権と特別刑務所

断種・優生政策→不妊手術・断種, 中絶(優生保護法で適用扱)

現代：1996年 らい予防法の廃止 健康保険で診療可

患者や家族への差別は緩和←完全にはなくなってはいない

- 4) 世界の状況

ウィキペディアより引用(一部改変)

ハンセン病について

- 1) 菌と感染力
- 2) 症状
- 3) 日本における歴史
- 4) 世界の状況

新規患者数（年間罹患者数）（人） 2018年

アフリカ州：20,586 アメリカ州：30,957 ヨーロッパ：50

東南アジア：148,495（インド120,334） 中東・近東：4,338

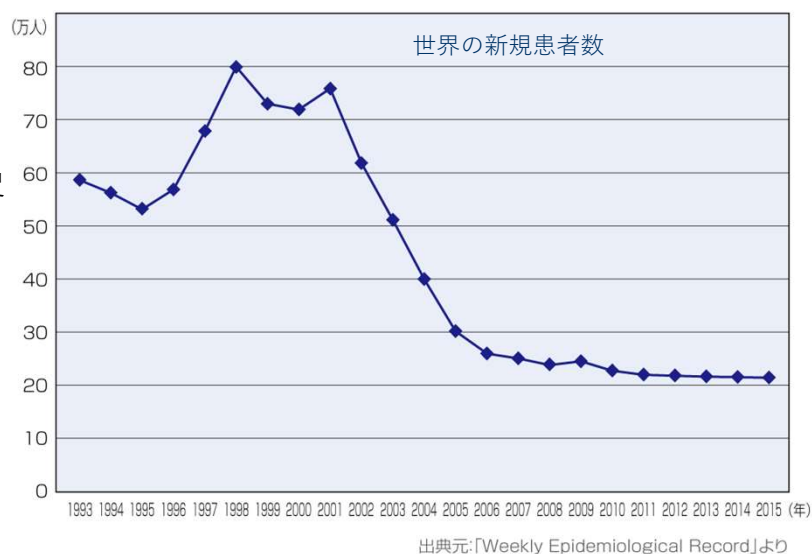
西太平洋：4,193 計 208,641

※診断されていない患者も相当数存在すると推定される

ウィキペディアより引用(一部改変)

ハンセン病について

- 1) 菌と感染力
- 2) 症状
- 3) 日本における歴史
- 4) 世界の状況



療養所

1) 施設数と所在地

- 国立13か所+私立1か所
- 人里離れた場所が多い
- 交通手段は様々
- 設置の経緯も多様

2) 入所者数と年齢

3) 施設の概容

4) 今後の課題

(令和6年5月1日現在)

入所者総数 (14カ所) 720名

●国立療養所 (13カ所) 718名

●私立療養所 (1カ所) 2名



厚労省「ハンセン病の向こう側」より引用(一部改変)

療養所

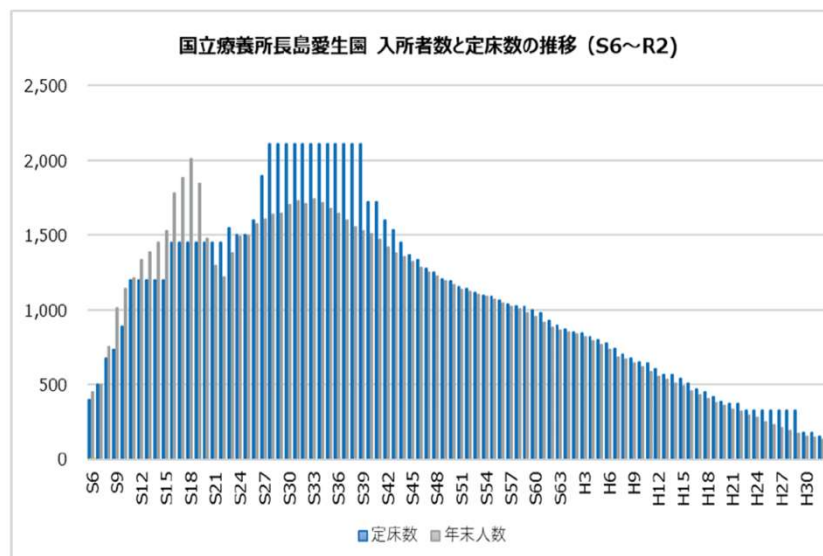
1) 施設数と所在地

2) 入所者数と年齢

- 平均年齢88.8歳
(2025年)
- ピーク時:11,911名
(1958年)

3) 施設の概容

4) 今後の課題



国立療養所長島愛生園保存活用ビジョン概要版より引用(一部改変)

療養所

1) 施設数と所在地

2) 入所者数と年齢

3) 施設の概容

一般舎 センター

外来 一般病棟 やすらぎ病棟

薬剤：院内処方箋が基本

検査：検体, XP, CT, 骨密度, 眼底写真, ホルターECG, 超音波(心臓など)

給食：希望者全員に 各種サービス：郵便, 入浴, 売店, 喫茶など

管理部門：事務, 福祉関係など

宗教施設 納骨堂 公会堂 各種イベント 地域とのつながり

※資料館が隣接

4) 今後の課題



図は国立ハンセン病資料館HPより引用(一部改変)

療養所

1) 施設数と所在地

2) 入所者数と年齢

3) 施設の概容

4) 今後の課題

後世にどう伝え

つづけるか

朝日新聞 > 記事

ハンセン病の患者隔離の記憶、どう伝える 多磨全生園入所者の危機感

有料記事

上田学 2025年12月2日 7時00分



list 0



過去の患者隔離の過酷な歴史を伝える史跡や施設がある国立ハンセン病療養所の多磨全生園（たまぜんしょうえん、東京都東村山市）を後世にどう残していくか。保存や維持に向けた将来構想が今年まとめられた。入所者は減り続け、高齢化も進んでいる。具体的な道筋をつけることが急務となっている。

デジタル朝日2025.12.2記事より引用(一部改変)

私の勤務状況

多磨全生園 2020年～

毎週水曜 片道2時間弱の通勤(電車とバス)

内科医として主に外来診療 受け持ち患者十数名 園外からの通院2名

※他科：外科, 精神科, 皮膚科, 耳鼻科, 整形外科, 眼科, 泌尿器科など

①定期通院

概ね4週毎 マルチモビディティー HT, DM, HL, CKD, CHFなど

20-30分/人 紙カルテ:検査データも 画像：モニター＋読影レポート

必要時は提携高次医療機関に紹介

(例) 慢性心不全の原因精査

AS→ハイド症候群→TAVI

深部静脈血栓症



私の勤務状況

多磨全生園 2020年～

②臨時診療

風邪、腹痛など～重症まで：外来や往診でまず診る

必要時は提携高次医療機関へ紹介

(例) 急性腎盂腎炎→敗血症性ショック

胆石疝痛発作→緊急搬送→手術

脳梗塞 など

③包括的なケア

定期健康診断 予防接種

ACP 多職種ケアカンファレンス

帰省の支援：多職種で計画し数名が同行 緊急時用診療情報提供書作成



私の勤務状況

栗生楽泉園 2022年～

毎月1回日曜夜～月曜昼

片道4時間半の通勤(電車とバスとタクシーか徒歩)

①当直

②内科外来診療

眼科と歯科を除く全科の臨時受診患者

職員の診療

31日現在)

人数 (14カ所) 720名

療養所 (13カ所) 718名

療養所 (1カ所) 2名

栗生楽泉園 (群馬県・32名)

長島愛生園

(岡山県・83名)

邑久光明園

(岡山県・55名)

松丘保養園

(青森県・41名)

東北新生園

(宮城県・26名)

多磨全生園

(東京都・94名)

国六緑河療養所

特徴的なこと

1) 患者さんの昔話

徐々に話題になる

隔離当時の想像を絶する体験やさまざまな思い出

2) 後遺障害への配慮

四肢や顔面などの損傷

皮膚や角膜などの知覚低下→外傷の増加と重症化

外傷の治癒が遷延

3) 超高齢者への診療

どこまでやるか

(外部に委託しても)

最後は園で亡くなりたい/看取りたい場合が多い

もっと知りたい方へ

- 厚労省などのホームページ
- 資料館や博物館
多くは療養所敷地内やその近くに
- 書籍
各種の記録や手記など
文学作品
- 映画
記録映画 小説の映画化 など

国立ハンセン病資料館HPより引用(一部改変)



まとめ

- ハンセン病療養所は過酷な歴史の現場
- 元患者の皆さんは高齢化
- 穏やかな老後を支える環境とスタッフ
- 後世にどうやって伝えるか
- 身近な差別や誤解への気づきにも